

## 配色マルチ密閉栽培によるサツマイモ早掘り作型の生産安定

### 1 背景・目的

県内のサツマイモ産地では、定植・収穫作業の分散化のため、4月下旬に定植し8月に収穫する早掘り作型が一部に導入されているものの、4月下旬の降霜など低温遭遇による活着不良により生産が不安定となりやすい。このため、配色マルチを用いた密閉栽培により低温の影響を回避し生産を安定させる技術を開発する。

### 2 技術のポイント

- (1) 畝の頂部に作った7cm程度のくぼみの中に挿し苗を定植し、発根までマルチで密閉する。発根後は、苗の成長点付近に切れ目を入れ、芽が外に伸びるようにする(図)。
- (2) 配色マルチの密閉栽培ではマルチ内に光が通り、地温も高まるため、発根が早く、初期生育に優れることから、安定した収量が得られる(写真、表)。

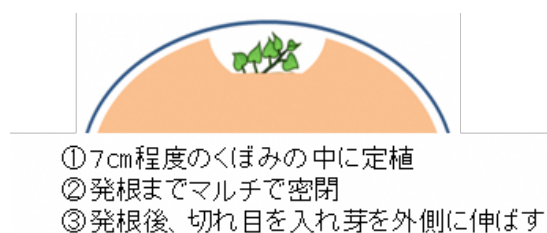


図 配色マルチ\*の密閉栽培

(\*中央 20 cm幅が透明でその両端が黒)



写真 定植9日後の発根状況

(配色マルチの密閉栽培=発根量が多い)

表 マルチの違いが初期生育・収穫に及ぼす影響

試験区	定植41日後(5月30日)		定植122日後(8月19日)			
	つる長 (cm)	地上部重 (g)	上いも <sup>Z</sup> 重 (g/株)	上いも数 (個/株)	上いも1個重 (g)	換算収量 <sup>Y</sup> (t/10a)
配色マルチ(密閉)	17.9	91.3	1,255	7.4	174.1	3.9
黒マルチ	12.9	39.3	928	5.2	180.3	2.9
有意性 <sup>X</sup>	**	**	*	*	NS	*

定植日: 2019年4月19日

<sup>Z</sup> 1個50g以上のいも      <sup>Y</sup> 栽植密度(3,120株/10a)を乗じて算出

<sup>X</sup> t検定で、\*\*は1%、\*は5%水準で有意差あり。NSは有意差なし。(n=10、地上部重のみn=3)

### 3 成果の活用と留意点

マルチの密閉前に、畝に十分な水分をもたせておく必要がある。

問合先: 砂丘地農業研究センター TEL 076-283-0073  
担当者: 竹下栄伸